

電子カルテや看護記録を解析し、患者一人ひとりの転倒リスクを予測

「Coroban®」は、FRONTEOがエーザイ株式会社と共に開発した、転倒転落予測システムです。電子カルテや看護記録などの患者情報を当社オリジナルの人工知能「Concept Encoder」で解析し、入院患者の転倒・転落のリスクを可視化します。

近年、日本では、超高齢社会の到来を背景に、患者の高齢化も急速に進んでおり、入院中の転倒リスクが大きな課題となっています。医療現場では、患者の転倒リスクを低減するため、さまざまな対策を行っていますが、看護業務が繁忙化する中、その対応にも限界があるのが実状です。

このような社会的課題を解決するために、2015年、FRONTEOはNTT東日本 関東病院と転倒転落予測システムの共同研究を開始しました。2019年9月には、エーザイ株式会社とともに「Coroban®」の医療機関への販売を開始し、2020年1月に特許庁より特許権（特許登録番号6652986号）を取得しています。FRONTEOは、本システムが高齢患者の転倒予防や看護業務の負担軽減などに貢献することをめざしています。

パートナー：エーザイ株式会社

※日本転倒予防学会推奨品

「Coroban®」による転倒転落予測の特徴

人間ではなくAIがリスク予測を行うので、

- ・アセスメントする看護師の主観が入らない
- ・交代勤務でも全ての患者を常に同じレベルで見守ることができる

